

幹事・運営委員と 地元県議・市長町長との合同会議

■日 時 / 2023年3月7日(火) ■会 場 / サンフロント9階 ミーティングホール



2023年3月、サンフロント21懇話会2022年度の幹事・運営委員と地元県議・市長町長との合同会議がサンフロントで開催され、2023年度の活動方針案を協議し、了承された。5月末の総会で正式決定する。記念講演では時事通信社国際室長で解説委員の岸田芳樹氏が、ロシアのウクライナ侵攻の背景や世界にもたらす深刻な安全保障リスクについて、長年の海外特派員記者の経験に基づき解説をした。

主催者挨拶



静岡新聞社常勤顧問
谷川 治

今年は例年よりもソメイヨシノの開花が若干早まるのではといわれ、いよいよ春本番を迎えます。ここ数年続いたコロナ禍での行動制限が、3月13日からはマスクの着脱が個人の判断に委ねられることとなりました。

本日は2023年度の活動方針についてご審議いただき、引き続いて時事通信社解説委員の岸田様にウクライナ情勢について解説をいただきます。岸田様はソ連崩壊時にモスクワに駐在しておられたロシア通のジャーナリストです。

懇話会の活動も29年目を迎えます。四半世紀以上にわたり、活動が続けてこられたのはひとえに皆さま方のお力添えの賜物であります。今後とも懇話会への活動へ一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

懇話会代表幹事挨拶



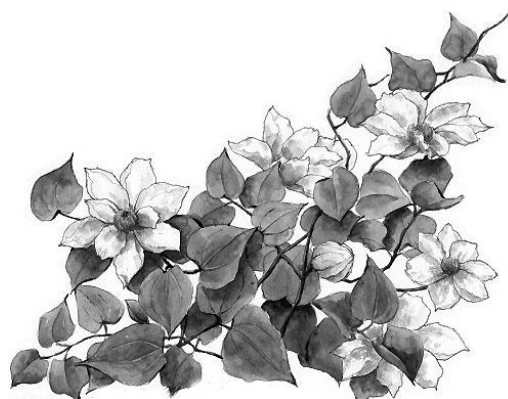
静岡中央銀行
代表取締役社長
清野 眞司

皆さま方には日頃から懇話会活動にご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。本日の合同会議では2023年度活動方針案について説明し、皆さまからご意見をいただきたいと思います。議事進行は頼重沼津市長にお願いしております。よろしくお願いいたします。

新年度の活動方針は大きく4つの柱を設けました。一つ目は地域創生につながる県東部の産業の持続的発展と新産業創出支援。これはファルマバレープロジェクトへの支援も含みます。二つ目は愛護から共生へ～動物と人との一層の近接化支援。県東部を動物愛護の先進地にしようと考えております。

三つ目は県東部の観光創造、文化力向上を支援。クレマチスの丘の整備を含めた支援です。四つ目は未来の都市景観を県東部から発信。沼津の鉄道高架化等を含みます。

県東部全域に及ぶ活動に、皆さま方よりさらなるご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



市長町長連絡会議会長挨拶



沼津市長
頼重 秀一氏

皆さまにおかれましては、常日頃より静岡県東部地域と沼津市の発展のため、多大なるご理解ご協力を賜り、改めて感謝申し上げます。

沼津市においては今年4月1日に市制100周年という節目を迎えます。記念事業として10月28～29日に沼津港を会場にシー級グルメ全国大会を開催します。B級C級のCではなくSea(海)のグルメイベントで、全国から多くの方々にお越しいただけるものと期待しております。3月1日に供用開始の総合体育館は、延床面積は県内屈指の広さを誇り、バスケットボールBリーグ、バレーボールVリーグの試合をはじめ、夏には大相撲夏巡業も予定しています。また当市はフェンシングのまちを標榜していることから、フェンシング全日本選手権も開催します。

今後は県東部全域のスポーツと観光を結びつけたスポーツツーリズム事業へと発展させ、それぞれの地域のポテンシャルを発揮し、活用できるよう、当市としても一所懸命努めます。今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

議事

2023年度の活動方針案について

議長 頼重 秀一氏 (沼津市長)

報告 伊東 哲夫氏 (懇話会運営委員長・弁護士)

4つの基本的テーマについて、中長期的なものとして継続して取り組む

- 地域創生につながる県東部の産業の持続的発展と新産業創出支援
- 愛護から共生へ。動物と人との一層の近接化支援
- 県東部の観光創造、文化力向上を支援
- 未来の都市景観を県東部から発信

いずれも賛成多数で了承され、5月末の総会にて正式決定する運びとなった。

講演

冷戦後秩序を変えた プーチンの戦争

講師

時事通信社国際室長兼解説委員

岸田 芳樹氏



ソ連崩壊直前の 「3日クーデター」現場に

私は1986年に時事通信社に入社し、ほぼ一貫して国際報道に携わってきました。1991年、最初に海外赴任したのはモスクワで、その年の年末にソ連が崩壊しました。最初の赴任地がモスクワだったというのは自分にとって非常に大きな意味があったと思います。

着任してまもなく、ゴルバチョフ大統領が拉致されるという「3日クーデター」が発生しました。80年代終わりにベルリンの壁が崩壊し、東欧共産圏の体制が揺らぐ中、ゴルバチョフ大統領はグラスノスチ（開放化）を進めながら、ゆるやかな連邦国家体制を保持しようとしていましたが、1991年8月、ソ連守旧派がクーデターを起こし、ゴルバチョフを拉致したのです。これに反旗を翻したのがロシア共和国のエリツィン大統領で、守旧派に徹底抗戦しました。ロシア共和国の白亜の政府庁舎に立て籠もったエリツィンを多くの若者支持者が庁舎を囲んで守ろうとし、守旧派の投降の呼びかけに従わない市民の数はどんどん増え、3日目の夜を迎えました。

私は政府庁舎の目の前にあった知人宅から

様子をうかがっていたのですが、守旧派の装甲車を人間の鎖が阻み、先頭にいた若者が装甲車によじのぼって兵士を説得しようとした。装甲車の指揮官は警告発砲した後、一人の若者の頭を撃ち抜きました。彼がバタッと倒れた後、ある者は逃げ帰り、ある者は装甲車に果敢に立ち向かった。その場で3人の命が失われました。私はその一部始終を目に焼き付けました。激しい雨が降っていたのですが、いつの間にか傘を捨て、必死に取材した。若者の血が緩やかな坂道を雨と共に流れていく様子を、現場雑感として書いたことが、取材記者としてのバックボーンになったように思います。

ゴルバチョフには1995年に直接インタビューする機会がありました。彼の手が分厚く、握手がものすごく強かったことを今でもよく覚えています。

91年8月の3日クーデターの直後、解放されたゴルバチョフがエリツィンに直面した時、エリツィンは握手を拒み、「今回の責任をどう取るのか」と詰め寄った。ソ連大統領とロシア大統領の地位が逆転した瞬間でした。そのことをどう思ったのか尋ねると、彼はソ連崩壊の後、ロシア経済が大混乱し、国民が疲弊したことを振り返り、「自分の行動は正しかったと思うが、

後は歴史が判断するだろう」と答えました。

プーチンは “積極的防衛主義者”

まず「プーチンはなぜウクライナ全面侵攻に踏み切ったか」からお話します。

歴史的に見てスラブ3国（ロシア、ベラルーシ、ウクライナ）は民族的につながりが深く、言葉も近いのですが、ロシアとウクライナの間には徹底的な感情のもつれが存在します。スラブ3国の祖は、9世紀に建国されたキエフ・ルーシという国です。この国を巡ってロシア、欧州諸国、さらにモンゴル勢力等も奪い合う時代が長年続きました。

一口にウクライナといっても民族的に異なる人々がいて、東部はロシア語系、西部は欧州系というように言語も文化も違います。スラブ3国の中でロシアは「大ロシア」と自称し、ウクライナのことを「小ロシア」、ベラルーシは「白ロシア」と表現しました。プーチンも、ロシアが主でウクライナが従という考えの持ち主です。

ソ連崩壊後、NATO拡大が進むと、ウクライナではロシア寄りの政権になったり、今のゼレンスキー大統領のように西側寄りになったりといういろいろ変わりましたが、プーチンとしては、小ロシアであるウクライナがNATOに加盟することは絶対に許されない。私自身、ロシアとアメリカを長年見続けてきて、ロシアが持つNATOに対する脅威やデッドラインについて、欧米もしっかり見極めるべきではなかったか、と思っています。

もう一つ、ロシアの特性として、アメリカのキッシンジャー元国務長官が「ロシアは行手を遮られると復讐の時を待つ」と評していた。ロシア研究者もプーチンのことを“積極的防衛主義者”とし、今回も彼の中では侵攻ではなく積極的に防衛しているんだというスタンスです。西側のロジックでは「なぜ侵攻したんだ」とい

うことになってますが、ロシア視点で見れば「いつかプーチンは侵攻するだろう」と。ただし、このタイミングでこれだけの規模で事を起こすとは想像していませんでした。

プーチンの理想はソ連の復活ではなく、ソ連以前の帝政ロシアであり、レーニンやスターリンではなくピョートル大帝です。アメリカがトランプによる分断化によって弱体化し、国際的な抑止力も低下している。アメリカにとっての一番の脅威が中国になっているというタイミングを見計らって侵攻を決断したとも言えます。

核兵器使用の可能性

2022年2月24日ロシアがウクライナ侵攻を開始し、1年が経ちました。当初は圧倒的な軍事力で早期に決着すると思われましたが、現在も戦争は続いています。主要な任務を担うのはロシア正規軍ではなく傭兵部隊で、東部2州と南部、クリミア半島の死守にあたっています。

これだけ戦争が長引いている要因は、まず西側が結束し、軍事的にも経済的にもウクライナを支援していること。西側にとっても負けられない戦いになったわけです。

最も懸念されるのはロシアの核兵器使用で、世界の多くのシンクタンクや研究者が真剣に懸念しています。本当に使用するかの蓋然性は低いものの、あり得る話だということ。どうすればロシアに核兵器を使用させずに終わらせるかが、欧米各国の政策担当者や中国にとっても最大の関心事となっています。

戦争の長期化はほぼ間違いありません。現状、ゼレンスキー大統領は領土の割譲は絶対反対とし、ウクライナ国民の世論調査でも80%以上が反対しています。一方、ロシアの世論調査では、戦争疲れもあってかウクライナとの和平交渉に入るべきという意見が50%以上にの

ぼっています。ただし占領した領土の返還には71%が反対しています。

プーチン大統領の支持率は一定して高いままです。ゴルバチョフやエリツィンの時代は経済が低迷しましたが、プーチンの時代になってエネルギー輸出等によって外貨獲得に成功し、経済が復活した。これがプーチン支持の要因ですが、ウクライナ情勢で経済が悪化し、支持率が下がるかと思ったらそれもない。プーチンはたとえ苦戦したとしても占領地を手放すつもりはないし、イコール戦争をやめるつもりはないでしょう。

今、実はアメリカとロシアは水面下で接触を図り、デッドラインがどこかを見極めようとしています。ドイツとアメリカの最新鋭戦車がウクライナに入りましたが、安保担当者同士「ここまでなら核兵器は使用しない」という暗黙の了解があったのではと考えられます。もちろんウクライナがロシアの領土を爆撃するようなことになれば話は別ですが。

戦争は残念ながら長期化し、市民の犠牲もなくなるでしょう。それでも核は使用しない・させない、というところでせめぎ合っています。

意外に底堅いロシア経済

ロシアに対する西側の経済制裁は、首脳やオリガルヒの資産凍結、禁輸、最恵国待遇撤回、金融制裁等、かつてない厳しさです。国際銀行間ネットワークSWIFTの制裁対象からロシア最大の銀行が除外されている等、抜け道もないわけではありませんが、国際刑事裁判所もプーチンを戦争犯罪人としてロシア軍の戦争犯罪調査に乗り出しています。

日本は対ロ制裁で欧米と協調していますが、一点異なるのはサハリン開発です。日本はサハリンでロシアと石油の共同開発を行っていますが、この権益は維持したままです。日本が

撤退したら中国に奪われてしまうからです。

以前、トランプのイラン制裁に同調し、イランのアザデガン油田開発から撤退したことがありました。その後イランに取材に行ったとき、現地には日本びいきが多く、日本の撤退を残念がっていましたが、今は中国に取って代わられています。中国はロシアを支援していますから、サハリン権益を死守したことは正しかったと思います。

ロシアの財政収支は、2022年に6.2兆円の赤字となりました。国家財政の4割を石油天然ガスに依存しており、西側が買わなくなったため一時は高騰しましたが、だぶついて下落し、今は中国、インド、トルコ等が相当安価でロシアの石油を買い支えています。ロシア経済が意外に底堅いのは、ロシア石油の売買をルーブル決済に限定したことでルーブルが買い支えられているから。中国、インド、トルコ等が経済制裁に参加していないことが大きいようです。

北朝鮮、北方領土への影響

プーチンの戦争は、エネルギーや資源価格の不安定化をもたらしました。例えば自動車の排ガスや電子部品の触媒に使われるパラジウムは世界の43%、天然ガスは57%を占めており、もともとロシア依存度が高い欧州はじめ、世界経済に大きな影響をもたらしています。現在、資源価格は落ち着いていますが、物流の混乱は収まっていません。

ウクライナ侵攻直後、西側の制裁が発動されようとした時、ユニクロの柳井さんが「衣料は生活必需品だからロシアから撤退しない」と発言し、駐日ウクライナ大使が「ズボンやシャツは、ウクライナ人が生きるための基本的ニーズよりも貴いのか」と反論して話題になりました。その後、ロシアの進出企業の多くが撤退し、日本からの進出企業168社のうち、事業停止は79社、撤退は27社という状況です。

国連安保理の機能不全は如実になりました。常任理事国にロシアと中国が入っていることで何もできない状況です。

日本にとって重要なことは北朝鮮問題への影響です。北朝鮮のミサイル技術は飛躍的に向上していますが、かつての6カ国協議は完全に停止状態です。ワシントンにいた2004年頃、元北朝鮮高官の亡命者から聞いたのは、「今、北朝鮮を叩いておかないと大変なことになる」ということでした。

北方領土に取材に行ったこともあります。プーチンは絶対に返還しないでしょう。90年代後半、一時、橋本首相とエリツィン大統領が歩み寄り、平和条約締結に前進したことがあります。ビザなし交流も始まり、「ロシア政府は何もしてくれない、日本のほうが親切。日本の領土になったほうが幸せだ」と話すロシア島民も多くいました。

その後、領土問題に尽力していた鈴木宗男さんや佐藤優さんが失脚させられましたが、当時、彼らが進めていた2島返還は、私も現実的な解決策だったと思います。もしこの時、先に2島だけでも返してもらっていたら、そこの住民が裕福に暮らすようになれば、残り2島の返還の流れも自然に生まれたのではないかと思います。

妥協点を探る

最後にまとめますと、ウクライナ情勢はすぐには解決できず、相当長引くと思われますが、深刻な安保リスクであるロシアの核兵器使用や原発攻撃は絶対に避けなければなりません。

台湾危機については、中国は今、ウクライナ情勢を注視しながら台湾への戦略を立てています。個人的には、いきなり台湾を侵略するような暴挙には出ないと思っていますが、隣接する日本にとってどのような安全保障が必要かを真剣に考えるべきでしょう。

クリミア半島は1950年代半ばまでロシア領で、黒海艦隊を駐留させるなど重要な軍事拠点でした。フルシチョフが帰属をウクライナにしたのですが、クリミア半島の住民の多くはロシア系です。プーチンがクリミア半島を併合したとき、世界は批判したものの、それほど強い制裁は科しませんでした。

今回はプーチンにとって手ぶらでは終われない戦争ですから、クリミア半島併合は認め、東部はロシア派の自治を認めるというような妥協を図るしかない、とも考えます。もしそこで折り合えるのであれば、唯一、早期解決が望めるのではないかと思います。

〈講師プロフィール〉

岸田 芳樹 (きしだ・よしき) 氏

時事通信社国際室長兼解説委員

1986年、時事通信社入社。90代はモスクワ特派員としてソ連崩壊、これを受けた新生ロシアの外交・内政、北方領土をめぐる日ロ交渉を取材。2000年代に入ってからワシントン特派員、ワシントン支局長として、北朝鮮核問題やイラク戦争、大統領選を取材した。外信部長などを経て、18年8月から21年3月まで米国時事通信社長兼ニューヨーク総局長。21年4月より国際室長兼解説委員

サンフロント21懇話会

2022年度 第28回 富士山地区分科会

日時

2023年
2月24日(金)

会場

ホテルグランド富士



サンフロント21懇話会は2023年2月24日、ホテルグランド富士(富士市)で2022年度富士山地区分科会を開催した。「スポーツを通じた地域づくり」をテーマに、県スポーツ担当補佐官 溝畑宏氏の基調講演、行政・民間事業者・イベントプロデューサーを加えたパネルディスカッションを通して、スポーツの可能性や地域活性化への活かし方を探った。

主催者挨拶



静岡新聞社・静岡放送社長
大須賀 紳晃

本日はご多用の中、富士山地区分科会に多数お集まりいただき、誠にありがとうございます。

4年目に入った新型コロナウイルス感染症はようやく出口が見え始め、ウィズコロナの取り組みを前提に経済活動が徐々に活発化し、いろいろな意味で正常化が図られていると思われます。そんな中、県東部伊豆地区が先陣を切って飛躍できるよう、皆さまが協調して進むことが大事であると思っております。

スポーツによる地域振興は全国各地で進んでおり、住民の健康増進や地域への社会的効果だけでなく、スポーツツーリズムやスポーツ合宿誘致等による経済効果の創出も期待されます。県東部伊豆地区は2021年の東京五輪パラリンピックの自転車競技会場となり、一過性で終わらせることなくレガシーを創出しようという取り組みが各地で具現化しております。フェンシング、サッカー、野球等さまざまなスポーツも盛んです。本日は静岡県スポーツ担当補佐官の溝畑宏氏に講演をお願いしました。ピンチをチャンスに変える考え方等興味深いお話がうかがえるものと思っております。

当懇話会の活動は今年29年目を迎えます。四半世紀以上にわたる活動を継続できるのも、会員の皆さまのご支援ご協力の賜物であります。ここに改めて感謝申し上げますとともに、さらなるご協力をお願いし、主催者の挨拶とさせていただきます。

懇話会代表幹事挨拶



静岡中央銀行
代表取締役社長
清野 眞司

本日は多くの皆さまにお集まりいただき、ありがとうございます。

先般、2月21日に川勝知事のもとへ、クレマチスの丘にあるヴァンジ美術館の活用について、提言書を持って伺いました。同館を将来どのように生かしていくべきか、産業と文化が結集してこそ県東部の未来があるとの考えのもと、サンフロン21懇話会の知恵を結集したものです。

県東部地区の産業は静岡がんセンターを中心としたファルマバレープロジェクトが進んでおりますが、県東部の文化についてはもう一押し、ということで、ヴァンジ美術館を生かすための手法をまとめました。知事は肯定的で、議会に通す上でもこのような提言が参考になると受け止めてくれました。

スポーツは、地域住民の健康増進を考えると一番の柱にすべき非常に重要なテーマです。スポーツを生かしたどのような提言ができるかを頭に置いて、今日のお話を伺っていただきたいと思いますと思っております。

基調講演

スポーツの可能性 地域活性化への 生かし方

講師

静岡県スポーツ担当補佐官、
大阪観光局理事長、元観光庁長官
溝畑 宏氏



■ 戦争経験者である父の教え ■

私は京都で生まれ育ちました。父が数学の教師をしており、子どもの頃から地球儀を前に「こんな狭い世界で満足してはダメだ、世界を舞台に一流の人間になれ、自立しろ」と徹底教育されました。戦争経験者である父には「自分は数学を通して世界を一つに結びたい、日本という国をもう一度世界一流の国にしたい」という熱い思いがあり、日常会話の中でも常に「今、自分が暮らす国や地域はどういう立ち位置にあるかを考えろ」と話していました。

中学・高校は川勝知事と同じで、知事の後輩にあたります。非常に自由闊達な校風で、先生は思想を押しつけるようなことはせず、やったことは常にポジティブに認めてくれました。そういう風土で育ったことは自分にとって大きなプラスだったと思います。

■ 経済は文化スポーツのパトロン ■

私は常々「経済とは文化スポーツのパトロンである」と考えています。文化スポーツは都市

の魅力进行バロメーターであり、経済と直結しているものであり、文化スポーツを常に“稼ぐ仕組み”にしていく必要があります。これがなければ育ちません。

ヨーロッパでは文化スポーツが生活の一部となっており、皆で支えるものという共通認識があります。その意味で、静岡県が文化スポーツ観光を一つにまとめて部局にしたのは、先見の明がありました。

実は観光庁長官時代に、韓国の「文化スポーツ観光部」を参考に、文化庁スポーツ庁観光庁を一つにまとめて省直轄にすべきだと提案したことがあります。韓国は人口4,000万しかない国ですから、90年代からクールコリア戦略としてドラマや映画を活用して海外にプロモーションをかけ、それを突破口に韓国製の家電製品や自動車をバンバン売り込んだ。90年代、2002年日韓W杯のプロモーションでアジア各国を訪問した時、驚いたのは、タイ、ベトナム、ミャンマーです。すでに韓流ドラマが人気を博し、そのCMでヒュンダイの自動車が流れていた。W杯開催を見据え、観光客を増やして韓国製品を売るという国家戦略だったのです。

タイでもスポーツ・観光・経済がセットになって取り組まれています。私は中高で野球

をやっていましたので、野球というスポーツにおけるチームプレイやマネジメント、コミュニケーションの重要性は企業経営にも通じると実感しています。

■ 平松守彦大分県知事との出会い ■

将来、海外で仕事をしたいと思っていた私が総務省に入ったのは、海外に行く前にこの国の東京一極集中を何とかしなければと考えたから。“地域の活性化なくして日本の活性化なし”にかけようと思ったからです。

消費税や交付税制度の導入に関わっていたとき、ガールフレンドに「溝畑くんは何の仕事をしているの?」と聞かれ、「消費税や交付税の制度づくり」と答えたら、「何それ?」と言われてショックを受けました。都内のOL100人にアンケート調査をしてみたら、消費税制度のことを知っている人はわずか2人、交付税についてはゼロでした。国民の誰にも理解されていない自己満足の仕事だと思ったら、やるせなくなり、自治省をもっと開かれた組織にすべきだと「自治省解体論」を唱えたら、「君、大分県に行け」と言われてしまいました(苦笑)。

当時、大分県には平松守彦という突拍子もない発想を持つ知事がおりました。「目立ってなんぼ」で、とにかく全国47都道府県の中で目立たなければダメだと。九州だけでも福岡や熊本に押されまくっている人口120万人の県です。私はすぐに、「目立つことをやりましょう」と意気投合しました。

一村一品運動は、一つの商品をどうやって全国に売り込むかを考えたものです。知事は感性の良い人で、たとえば大分の焼酎は「焼酎というネーミングがダサい、名前から変えよう」と、焼酎のいいちこに「下町のナポレオン」というコピーを付け、ビリーバンバンの音楽に乗せた明るいコマーシャルを作りました。これを持って東京の料亭や居酒屋回りをし、椎茸や

カボスと一緒に味わってもらおうよう提案し、知事からは「ちゃんとこの店に置いてもらうのを確認するまで大分には帰ってくるな」と言われました。

行政のやり方としては前代未聞でしたが、吉本興業にも職員を出向させ、吉本新喜劇の舞台では毎回大分の物産をアピールしました。アジやサバも「関アジ」「関サバ」にブランディングした。とにかく常識はずれといいますが、他と同じことは絶対やらず、どうやったら目立つかをトコトン考え、行動しました。

■ サッカーW杯を大分で!?

初めてスポーツが凄いと思ったのは33年前です。イタリアに滞在していた両親からW杯でものすごく盛り上っていると聞いて現地へ飛び、実際、ベローナという大分市より小さな街が、全世界から集まったサポーターで満杯だったのを目の当たりにしました。まだJリーグ発足前でしたが、「これ、日本でやれへんかなあ」と一気にヒートアップし、大分へ帰ってサッカーの話をしたら、「ワールドカップ?なんだそれ、カップラーメンか?」「大分はサッカーより野球だ」と言われてしまいました。当時のサッカーW杯はNHKのBSでちょこっと紹介される程度。日本はもちろんW杯の出場経験はありません。

それでも、いつか必ず日本でもやれるだろうと確信めいたものがあり、知事や市長に説明し、その勢いで日本サッカー協会を訪ね、「2002年の大会を日本、韓国、メキシコで誘致している」という情報をつかみました。川淵さんからは「大分での開催は難しいよ」と言われましたが、「どうやったらできますか」と食い下がり、4万人規模のスタジアムと、将来プロリーグを作るから参加するプロチームが必要だという宿題をもらったのです。

ヨーロッパで見たサッカー観戦風景は、大勢

の着飾った人々が家族連れで飲食しながら楽しんでいた。まさにスポーツ文化であり、エンターテインメントであり社交の場であり、皆が一つになれるお祭りでした。そういう成功のイメージがあったものですから、平松知事には「大分に4万人収容の全天候型のスタジアムを作り、サッカー以外にもコンサートができるようにしましょう、目指すべきは世界一流です」と提案しました。

さらに「W杯誘致はあくまでも手段です。10年後にはサッカーに加えて3つぐらいの分野で一流を究めましょう、でなければ大分は埋没してしまいます」と訴え、イタリアのナポリを念頭に、空港の国際化、高速道路の整備、ホテル誘致、企業誘致、大学誘致を提案しました。

案の定、「お前は本当に身の丈を超えたことをしよるな」「財政はどうなるんだ」と誹謗中傷の嵐でしたが、自分は「場合によったら国家公務員を辞めてもいい。10年後に失敗したら皆さんの前で腹を切ります」と宣言しました。リスクを背負ったら何事にも挑戦できるのです。

■ ホラ吹きのおすすめ ■

スポーツに関わって分かったのは、「大きく明確な目標を持つ」「明るい将来を展望すること」の大切さです。皆が幸せになることを具体的にイメージさせ、それに向かってロードマップを作る。企業の経営目標と同じですね。2002年に向かって空港の国際化を進め、高速道路を整備し、それに併せて企業流通団地を整備し、人口120万人を125万にし、一人当たりのGDPをいくかにする。すべてに目標設定をし、民間にはここまでやってくださいと示しました。反対はありましたが、よし、取りあえずやってみるか、という声も上がりました。

物事を進めるときは、誰か一人、「自分が責任を取る」と言い切らなければ前に進みません。特に組織では人事異動がありますから、最後ま

で責任を持つということをしてしない。今、私は自分の組織で「これをお前に10年まかせるからやり遂げろ」「ちゃんと結果を出し、他から高額年俸で引っ張られるようになれ」と一人ひとりにミッションを与えています。

人材を育てなければ地域は発展しません。仕事をまかせ、全力で支援し、時間を掛けて最後までやらせる。大分でやったのは、いわば「ホラ吹きのおすすめ」です。「世界一になるんや」という大ホラを吹いて皆の夢や共感を集め、協力してもらうという地道な努力が、プロジェクトの成功につながるのだと思います。

おかげさまで、大分トリニータは8年でJリーグ1部に昇格しました。ゼロから作ったチームですから、最初の観客は3人でした。それでも「ゼロじゃない」と叱咤激励し、「来たお客さんに、次も絶対に来てもらうようにしよう」「一日100人を目指そう」と目標を立て、私も朝5時に起きて地元企業の朝礼におじゃまして観戦を呼びかけたり、駅でビール配りをしました。これを10年間コツコツと続け、資金不足で本当に苦しかったのですが、最終的に9年目に1試合平均の観客約2万5千人、年間シート1万5千人、個人会員3万人のチームになりました。

ナビスコの決勝は清水エスパルスとの対戦でした。清水の長谷川健太監督が「うちが勝って当たり前」という顔をしていましたが、結果は2-0で大分が優勝し、私を含めた関係者は「いつ死んでもいい」と大号泣した。それほどスポーツというのはいろいろな人の人生を変え、人と人をつなげる交流であり教育であり、経済でもあり、さらにはSDGsにもつながるものです。

■ サイクリングは最高のウェルビーイング ■

観光庁長官になったときも、この国はスポーツツーリズムをビジネスにつなげるべきだと考え、着目したのが日本各地のマラソン大会の

活性化でした。マラソン大会を開催すると1万人以上の人が集まり宿泊します。観光面でケアをすれば北海道から沖縄までツーリズムビジネスが展開できるでしょう。

サイクリングはもともと興味があり、パリにいた頃、ツールドフランスを間近に観戦し、サイクリングをやっている人のステータスがいかに高いかを感じていました。

直接サイクリングと向き合ったのは東日本大震災がきっかけです。被災地へ支援に入るのに交通手段がないので自転車で行くことになり、実際に三陸沿岸を自転車で回って見たら、「ここはサイクリングに最高の場所だ」と実感したのです。身体を使えば健康増進につながるし、疲れたら温泉で休める。最高のウェルビーイングです。またその頃から、CO₂の問題を考えたら車はあかん、と感じ始めていました。自転車ならゼロカーボンで環境に優しいし、景観も楽しめ、人とも気軽に触れ合える。そのことを痛感しました。

10年前には伊豆半島も自転車で回り、富士山を眺めながら走る贅沢をしみじみ感じました。当時、川勝知事が全国でもいち早くサイクリングを生かした地域づくりに着手し、静岡県でサイクリングを安全安心快適に楽しむためのルートづくりが推進したと思っています。この先、静岡をサイクリングの聖地にするなら、静岡に着けば、北は北海道、南は沖縄までサイクリングで旅が出来るコンテンツを揃え、富士山を眺めてサイクリングが楽しめる定番ソフトを作るべきです。

■ 大阪と静岡の連携 ■

スポーツをやる上で必要不可欠なのは「食」です。大阪は“安くて美味い”が定着してしまっていて苦労しており、大阪で500円で食べられるうどんが、東京では700円、ニューヨークでは1,300円。大阪は食の消費単価が低すぎ

るのです。必要なのはこれを上げていく努力と、SDGsの観点から取り組む地産地消やフードロスゼロ、食の多様性の受け入れ等です。食は単に腹を満たすだけではなく、音楽や景観と一緒に楽しむという“掛け算の強み”があります。さまざまなコンテンツと掛け合わせることで価値を上げていけるのです。

大阪では食のイノベーションのため、様々なコンテストや展示会を積極的に誘致しています。静岡でも料理人を海外一流の料理人と交流する仕組み作りが必要でしょう。一流の舞台で磨かれることで価値が上がります。大阪では若い優秀なシェフを海外で勉強させる支援をしています。文化支援の面では、大阪には美術館博物館コンサートのポータルサイトがなかったため、これに取り組んでいます。

スポーツツーリズムやスポーツアクティビティ、スポーツ関連の国際展示会イベント等の誘致も進めています。プロ野球やJリーグとも連携しながらポータルサイトを作っています。サイクリングに関しては、2025年の万博の年をゼロカーボンの年と位置づけ、万博会場ではサイクリングで移動する仕掛けを考えているところです。

サイクリングを愛好する世界の富裕層を呼び込むためには、ぜひとも静岡と連携したいと思っています。最近では日本で先端医療や高度治療を受けたいという富裕層が増えており、大阪でも旅行会社や医療機関と連携し、受け皿づくりを進めていますので、サイクリングに関しては静岡がぜひゲートウェイとなってほしい。そのお手伝いを私ももしたい。テーマごとにぐるっと日本をつなげていければと思っています。

富裕層対策としては、日本が遅れているLGBTQへの対応が重要です。実は富裕層の約3割がLGBTQで、平均資産1兆円クラスの会社CEOだそうです。こういう方々が安心して旅行できる仕組み作りも必要でしょう。

ペット市場も見逃せません。イヌは約3兆

円、ネコは3兆円市場といわれ、大阪では万博でペット共生の街づくりを目指すべく、ペット可の宿泊施設や観光施設、交通機関をつないだルートを作っています。

ヨーロッパの人々は5～10月シーズン、夕食を取るのはだいたい20時以降で、22時以降にスイッチが入ります。日本人とは時間の感覚が違うのです。そこで大阪では夜22時以降に楽しめるナイトパスを作り、美術館博物館の夜間営業にも力を入れています。道頓堀の水門の閉門時間も遅らせてナイトクルーズを楽しめるよう準備しています。

世界の中で 選ばれる都市になるには

8年前に観光庁長官を辞めた後、東京五輪準備を手伝っていて、たまたま関西の財界セミナーに呼ばれて行ったとき、関西経済の低迷に驚きました。40年前に京都に住んでいた頃は、大阪府民一人当たりの平均所得は東京の10分の9でしたが、今は10分の6で、全国平均を若干上回る程度。これに対し何の危機感も持っていないことに、同じ関西出身者として危機感を覚えました。

五代友厚は明治維新後、政府の仕事を辞めて大阪に行き、経済都市である大阪から日本を変えようと商工会議所を作り、造幣局を作り、大学を作って、経済人として国を動かしました。彼は「大阪をアジアのマンチェスターにしたい」をスローガンに鼓舞した。150年前の彼のこの行動が励みとなり、「夢や希望、チャレンジができる都市になろう」と鼓舞しました。

万博をやろうとしたときも「やめときなはれ」という声にあらがい、何でもとにかくやってみよう、ここでは失敗しても何度もチャレンジできるんだと。シリコンバレーでは10の事業のうち1つか2つ当たればOKというまちです。だからこそ世界から挑戦者が集まる。ベンチャーやスタートアップを徹底的に強化

し、世界の知恵を呼び込もうと考えました。

世界の中で選ばれる都市になるにはSDGsの項目にもある多様性や協働といった観点が必要です。コロナによってますます重視される安全安心清潔に、防災を加えた様々な都市機能を強化し、生活居住のレベルアップを図る。世界の中で住みやすい都市ランキングを常に意識しています。静岡も、どのような都市を目指すにしても、しっかりとした指標を持って取り組む必要があると思います。

大阪は2府4県の真ん中にあり、2時間で瀬戸内、広島、鳥取、島根、福井、石川までカバーできる。この半径2時間を大きな商圈にしていこうと意識しています。

経済を発展させるには交通体系の見直しもセットになります。万博をやり、IRを開業し、それに伴う都市環境の整備の一環として、鉄道網の整備は一気に進み、ぐるっと循環できるようになる。さらに年間5,000万人しか受け入れていない3空港を、7,000万人規模の仁川国際空港に並ぶよう整備する必要がある。静岡空港も同様で、ゲートウェイとしての機能をもっと強化すべきです。どうやって直行便を増やすか、キャパを広げるか、将来空港でどれだけの経済効果をもたらすか静岡県としての戦略が必要でしょう。

シンク・グローバル、 アスク・ローカル

この国は今、経済は超低迷。賃金は上がらず貧富の差は拡大し、教育環境も劣化し、環境問題は待ったなしという状況です。昆虫の生息数は30年間で8割減り、10年前に比べて精神疾患を持つ人は5～6倍に増えています。生態系にとっての危機といってもいいでしょう。

そういう中で迎えた2023年、今まで組織で縛っていたものがコロナによって流動化し、地方でも競争に勝てるチャンスが生まれつつあります。ピンチはチャンスです。

静岡は東京と名古屋の真ん中にあり、年間を通して温暖で地の利が大きい。山梨や長野と連携すればこのゾーンはもっと面白くなるでしょう。ここを中心に日本地図を思い描いてみてください。東京じゃない、静岡から半径1時間範囲で見て、10年後、どういう地図が描けるか、です。東京や大阪は目じゃありません。私が大分県で東アジアの玄関口を目指そうと、いろいろな指標を考えたように、静岡でも官民を挙げて挑戦して欲しいと思います。

2019年のラグビーW杯で日本のラグビーの新しい礎を築き、2021年東京五輪パラリンピックで世界の中の静岡を意識できました。ことし2023年は次のステージへの飛躍の年。今こそシンク・グローバル、アスク・ロー

カルです。

静岡県のスポーツ行政は先進的です。県が教育委員会にあったものを知事部局に持っていただけても画期的。スポーツ局が出来て文化・観光とタイアップすることで、ラグビーW杯19のレガシー、東京五輪パラリンピック21のレガシーを、静岡県が持つ地政学的な魅力と組み合わせ、スポーツを核とした事業が実現できるのではと期待しています。

官民連携は、静岡は日本で一番早く進んでいくでしょう。今後、静岡は何処を目指すべきか。サイクリングは一つの大きな核となります。さらに現在、将来プロ野球チームを創る動きも進んでいますね。サッカーも含め、静岡県と一緒に何か出来ればと思っています。



〈講師プロフィール〉

溝畑 宏 (みぞはた・ひろし) 氏

静岡県スポーツ担当補佐官、大阪観光局理事長、元観光庁長官

1960年京都府生まれ。1985年東京大学法学部卒業、自治省入省。2002年大分県企画文化部長。2004年(株)大分フットボールクラブ代表取締役。2008年Jリーグナビスコ杯優勝。2010年国土交通省観光庁長官。2012年内閣官房参与、大阪府特別顧問、京都府参与。2015年大阪観光局理事長(大阪観光局長)。大阪府市都市魅力戦略推進会議 委員。2017年大阪府・大阪市IR推進会議 座長。大阪・関西スポーツツーリズム&MICE推進協議会 会長

パネルディスカッション

スポーツを通じた地域づくり～ 東京五輪・パラ遺産を 起爆剤に考える

パネリスト

- 溝畑 宏 氏（静岡県スポーツ担当補佐官、大阪観光局理事長、元観光庁長官）
- 小長井 義正 氏（富士市長）
- 庄司 政史 氏（㈱時之栖 代表取締役社長）
- マルコ・ファヴァロ 氏（伊豆市地域おこし協力隊、サイクリングイベントプロデューサー）

コーディネーター

- 大石 人士 氏（静岡経済研究所シニアチーフアドバイザー、サンフロント21懇話会TESS委員）

（大石）基調講演にもありましたように、スポーツには多様性があり、誘客を図る観光資源としての効果もあります。特に県東部伊豆地区は、豊かな自然や地域資源を活かしたスポーツ人口の増加が望める地域でもあります。東京五輪パラリンピックを機に自転車競技への関心も高まっております。

スポーツはただ楽しむだけではなく、さまざまな分野との連携が地域資源となり、地域の付加価値を高めていくものと思われれます。ここからは地元で頑張っておられる皆さまと探っていきたいと思えます。



大石 人士 氏

（ファヴァロ）私は1968年生まれの54才です。自分が生まれ育ったイタリアの小さな村では自転車が盛んで、村祭りでは1周5キロの自転車レースもありました。

私の世代は日本のアニメが入ってきた最初の時代で、永井豪のマジンガーZ等がイタリアでも放送されました。当時は日本製のVHS、自動車、SONY製品が非常に強い時代で、日本に関心を持ち、国費留学制度に応募して名古屋大学に留学しました。日本経済の強さは日本の教育に秘訣があると思っていたのですが、よくわからず、経営者の反骨精神が日本経済を導いたのだと理解しました。

スポーツは、やるのは苦手でしたが関心はあり、大学卒業後、東京にある文部省管轄の学校でイタリア語の教材開発をしながらスポーツジャーナリストの活動を始めました。自転車競技が好きだったので、イタリア人のスポーツサイクリストが来日するたびに取材をし、なぜ日本では自転車競技がメジャーにならないの

か、チームづくりの仕組みから研究をし始め、イタリアにおける自転車文化についての記事も書きました。東京五輪パラリンピックでは自転車競技のイタリアチームのアテンドを担当し、チームは見事、世界新記録で金メダルを獲得しました。

その後、五輪会場となった伊豆市で地域おこし協力隊の募集があったので応募し、採用され、現在、伊豆市において自転車の普及活動に努めています。山間部の多い地域ですから、住民の方々にいきなり自転車をやれというのは難しいのですが、海外からやってくるツーリストの方々をアテンドしながら伊豆の魅力を紹介しています。

(庄司) 時之栖は1994年創業で、宿泊事業を中心に多岐にわたる事業を行っています。スポーツに関してはアジア最大のスポーツフィールドの提供という目標を掲げ、県東部を中心に様々なスポーツ施設を展開しています。高校世代のサッカー合宿が主なターゲットで、宿舍とピッチが隣接した日本でも数少ない施設を有し、1,000人規模の大会も独自開催できます。

毎年1月3日から、高校サッカーの裏選手権というのを開催しています。これは、前年末の全国選手権の地方予選の準々決勝や準決勝で敗退したチームを招聘したもので、全国選手権出場チームと遜色のない実力校が揃います。優勝したチームはその年の年末の全国選手権で優勝するなど大きな注目を集めることから“裏選手権”の異名が付いています。

ルーキーリーグという高校1年生世代のためのリーグも開催しています。強豪校では代表選手に選ばれるチャンスが少ないが、将来有望な1年生に出来る限り試合経験を積ませるという目的です。コーチも強豪校から招聘し、将来監督になるための経験値を積んでもらっています。私どもにとってもマーケットの創出につながる事業です。

日本サッカー協会が福島で設立したJビレッ

ジが、震災の影響で使用できなかった時、私どもの施設を活用していただきました。ジュビロの金子選手やエスパルスの山原選手もここで育っています。

(小長井) 富士市は海拔0メートルから富士山9合目の3,680メートルまでを有することから、“いただきへのはじまり・富士市”をブランドメッセージにしています。現在、SDGs未来都市の認定を受け、バイオマス発電等の活用で工業都市におけるゼロカーボンに挑戦しています。

スポーツは文化と同じ市民部に含めていましたが、市の第6次総合計画前期(2022～2026年)では定住人口や関係人口の増加を目指し、令和4年度から市民部には市民向けの文



小長井 義正 氏

化スポーツ課を、スポーツ交流推進は産業交流部の交流観光課で取り組むこととしました。スポーツをこれまでの教育というよりも観光ビジネスにつなげる目的です。

イタリアの脱クルマ社会

(大石) 地域との具体的な連携について伺います。まずはマルコさん、イタリアのサイクリング事情をご紹介いただけますか。

(ファヴァロ) 自転車は①生活の足、②イベント、③観光と健康と、大きく3つぐらいの利用が考えられますが、①に関してはなかなか難しく、私が住む伊豆市でも買い物に自転車を使う人

は皆無で、イタリアも実は日本に負けない自動車社会なのです。

第二次世界大戦の敗戦国として莫大な賠償金を背負ったイタリアで、1950～60年代の経済復興の要となったのは自動車産業でした。



マルコ・ファヴァロ 氏

その後、車の数が増えすぎて公害問題が顕在化し、1967年に市街地への自動車の移入制限の法律が作られました。実際に執行されたのは1985年です。街の中心部に入る車両はバス、救急車、自

転車のみ。当時のことはよく覚えていますが、商店街を中心に暴動が起き、政府も「業務用車両は朝〇時までならOK」という妥協点を打ち出しました。

現在の市街地では車の代わりに自転車が行き交い、高齢者が元気よく歩いています。政府が地方の小さな自治体にも補助を出してサイクリングロードの整備を進め、経済活性化が期待できるイベントとして、道路を封鎖してのサイクリングレースを数多く開催しています。ジオ・イタリアやツールドフランスのように大きな街をつないだ150～200キロ規模のレースもありますが、小さな街をグルグル回るローカルレースも盛んです。

宇都宮で開催されるジャパンカップという自転車レースは出場選手が1チーム10名ですが、スタッフが20名でこれが20チーム参加します。メディアや関係者スポンサーや観光客を含めると10万人が集まり、ホテルはほとんど満杯となります。小さな地域でも人気のある選手がやってくると相応の経済効果が期待できるのです。

2023年5月に伊豆で開催予定の「Eroica」というイベントは、もともとトスカナ州の人口2,000人の過疎の町で始まったもので、文化的価値のある古城や教会、田園風景を、ヴィンテージ自転車に乗って楽しむというもの。車がなければ行けない僻地ですが、全世界から2万～3万人が集まり畑や教会の空地に車を置いて大いに盛り上がります。

この大会が魅力的なのは、サイクリストが求める①走りやすい道、②美しい景色、③文化を感じる場所が揃っている点です。イタリアは町づくりが文化となっており、厳しい景観条例で守っています。自分の家も町が認めたデザインでなければダメなのです。河川から150メートル以内のすべての家が対象で、私の実家も許可されたデザインに建て直すよう命じられました。それだけ町の景観を重視しているのです。

御殿場からオリンピックを！

(庄司) 自治体との協働事例として、御殿場市でMTB & RUNパークFUTAGOという施設を整備しました。もともと御殿場市が整備した排水路を活用できないかという提案をいただいたのがきっかけで、湧水や木育を大切にしている地域ですのでマウンテンバイクのコースが作れないかと発案しました。いずれスクール等も開催し、「いつか御殿場からオリンピックを輩出したいね」と御殿場市長と話しています。

台湾のMEDIA社とは『道の駅伊豆のへそ』に展示場MEDIA×BASEを設けました。レンタルバイクの核となる施設でもあり、子どもたちのスクールの拠点にもなります。ここから、瀬戸内海のしまなみ街道に負けないサイクリングロードを作ろうというのが夢です。

富士市大淵の旧常葉大学富士キャンパスをリノベーションしたエスプラット・フジパーク



庄司 政史 氏

は、サッカーのみならず卓球、バスケ、バレー、新体操など多様なスポーツの集積を目指しています。地ビールやウイスキー蒸留所も併設し、地域との関連を強めたいと考えています。

あります。体育館の西側には陸上競技場、野球場、テニスコートがあり、道路を挟んだ北側に県水泳場と時之栖のエスプラット・フジパークがありますので、このエリアが、スポーツ施設が集約された一大聖地になるのではと期待しています。

富士川一帯には広大な緑地公園があり、全国からいろいろな大会を誘致していますが、公式の規格になっていない競技場は使い勝手が悪いので、現在、左岸にソフトボール場8面、少年野球場4面、リトルリーグ用球場2面、サッカー場6面を再整備しています。右岸にも野球場2面を整備する予定です。これだけの規模は他にはなく、全国からもアクセスしやすく、ましてや富士山の絶景を眺めながらスポーツを楽しめる場所ですので、これからさらに誘致を進めたいと思っています。

富士市ではウルトラトレイルマウントフジ、富士川キウイマラソン、競泳の静岡招待スプリント選手権、富士山女子駅伝、富士山サイクルロードレース、アルティメット（フライングディスク）の大会を開催しています。オリン

広域整備が進む 富士山麓のスポーツ聖地

(小長井) 富士市では大淵にある富士総合運動公園に新体育館を建設中です。初めてのPFI事業として設計施工から15年間の管理運営までをひとつの事業者へ委託し、令和7年度4月1日に供用開始予定です。メインアリーナはバスケットコート3面、最大3,000人の収容能力が



ピック関連ではホストタウンとして友好関係にあるスイスとラトビアを支援しました。モンゴルのパラチームの支援も行っています。

特にスイスは2019年に韓国で開催された世界水泳の事前合宿も受け入れ、東京五輪と併せて素晴らしい成績を収めてくれました。今年福岡で開催される世界水泳の事前合宿も決まっています。水泳を通じた交流の覚書も交わしており、大会後のレガシーとしてスイスとはさまざまな連携を進めていきたいと思っています。

(大石) ここまでのお話を、溝畑さんはどう感じられましたか？

(溝畑) 世界の潮流として車から自転車という流れを確信しました。イタリアは1960年代から取り組んでいたのです。走りやすい道、美しい景色、文化を感じる場所というのは都市の魅力の重要な要素です。庄司さんの取り組みも重要で、観光とは、地域の総合的戦略産業であると実感します。いかにしてスポーツという資源をマネタイジングしていくか、遊休地や廃校の活用は文化にも適応できることです。

富士市はSDGsやゼロカーボンへの取り組みなど、都市の正しい立ち位置にあると実感します。その上でスポーツを稼ぐ体質に変え

ていくには官民連携が必要で、情報の一元化を担うスポーツコミッション機能の強化が求められるでしょう。たとえば今年3月だけでも、女子7人制ラグビーの公式戦が始まり、袋井掛川でのロード

レースなど質の高いイベントがありますが、バラバラに発信しています。これを一つにまとめ、毎月どこで何をやるのかが一目で判る広報体制を整えるべきでしょう。

静岡で多様なスポーツが体験できるのは四季がハッキリし、年間を通して温暖で、海や山もあるからです。この強みを表現していく必要があるでしょう。

スポーツ分野の 人材・産業育成に

(庄司) 10年ほど前、当社の創業者が、錦織圭選手も参加していたアメリカのIMGアカデミー（全寮制スポーツアカデミー）を視察し、マウントフジスポーツワールド構想というのを打ち立てました。富士市をはじめ各市町にも素晴らしい施設がたくさんあります。アスリートにとって自治体の境界線はまったく関係ありませんので、いずれはひとつの大きなまとまりとなり、アスリートの食や健康をサポートする新産業の集積も出来たらいいと願っています。自治体は工業団地を作って企業誘致をしますがスポーツ産業を呼び込む仕組みも欲しいですね。

(小長井) 富士市ではサイクルスポーツ推進の一環として、富士市サイクルステーション「ふじくる」をオープンし、自転車のレンタルサービスを始めました。滞在型観光を目指す上でサイクルツーリズムも大きなテーマになると思います。

3月初めには富士山サイクルロードレース2023を開催します。市役所前の公道を使用するクリテリウム（周回レース）で、前年は全国から1万5千人が参加しました。市民スポーツの推進という観点では、整備中の各施設は市民にも活用してもらいたいし、観光交流拠点としても有効活用したい。そのあたりの兼ね合いが今後の課題だろうと思っています。



溝畑 宏 氏

(ファヴァロ) 先ほど紹介した Eroica は富裕層の大会です。情報を一元化し、いかに海外に発信していくかがますます重要になります。

(溝畑) スポーツは、ものづくり、食、医療、観光、人材育成、健康長寿、SDGs などさまざまな分野につながります。シリコンバレーがベンチャーを育成するように、あらゆる英知をつ

なげてスポーツビジネスを興せる土壌を、静岡ならつくれると思います。2023年にまずその流れを生み出してください。大阪は10円のを1万円で売ろうという町ですが、静岡にはホンモノがあります。ぜひ自信を持って高みを目指してください。

(大石) ありがとうございました。

〈出演者プロフィール〉

小 長 井 義 正 (こながい・よしまさ) 氏
富士市長

1955年生まれ。1979年一橋大学商学部卒業、ニチメン(株)(現 双日(株))などを経て、1997年富士市議に当選、2013年まで5期務める。2009年富士市議会議員、全国特例市議会議員。2014年富士市長に初当選。2018年全国施行時特例市市長会監事、2020年静岡県東部市長会会長。2021年から静岡県市長会副会長。現在3期目。

庄 司 政 史 (しょうじ・まさふみ) 氏
株式会社時之栖 代表取締役社長

1965年北海道生まれ。天理大学卒業。大阪の鉄鋼商社を経て1995年(株)時之栖入社。2006年専務取締役、2012年代表取締役社長に就任。公益財団法人静岡県スポーツ協会副会長、社会福祉法人富岳会理事も務める。

Marco Favaro (マルコ・ファヴァロ) 氏
伊豆市地域おこし協力隊 サイクリングイベントプロデューサー

1968年イタリア生まれ。名古屋大学教育学部卒。スポーツジャーナリスト、通訳、サイクリングイベント主催。現在、伊豆市地域おこし協力隊として、サイクル文化が定着できる地域おこしに挑んでいる。サイクルウェア Kapelmuur アンバサダー、イタリア外務省認定教育団体ダンテ・アリギエーリ協会理事。

大 石 人 士 (おおいし・ひとし) 氏
静岡経済研究所シニアチーフアドバイザー サンフロント21懇話会 TESS 研究員

1956年生まれ。1979年専修大学経済学部卒業。静岡銀行入行後、1982年(財)静岡経済研究所出向。2005年より研究部長、2012年理事、2014年常務理事、2019年専務理事、2020年よりシニアチーフアドバイザー。専門は地域経済、景気動向、企業経営、行政改革、地域開発、商店街活性化、まちづくりなど。静岡地方労働審議会委員、静岡県雇用対策審議会委員なども務める。

サンフロント21懇話会

第28回 全体会

日時 2022年12月22日(木)

会場 沼津リバーサイドホテル

サンフロント21懇話会は2022年12月22日、沼津リバーサイドホテル（沼津市）で2022年度全体会を開催し、会員約110人が出席した。県東部地区の文化力向上をテーマに、公益財団法人静岡県舞台芸術センターSPACの戯曲「夜叉ヶ池」の一場面を鑑賞し、宮城聡芸術総監督に、人類の歴史上、演劇が生まれ、発展した背景や、静岡から世界へ発信する意義、地域に求められる多様な価値観や文化力の必要性について語ってもらった。



主催者挨拶



静岡新聞社・静岡放送社長
大須賀 紳晃

本日はお忙しい中、全体会に多数ご参集いただき、誠にありがとうございます。

2022年の十大ニュースが報じられる季節となりました。依然収束の見通しが立たないコロナ感染に加え、ウクライナの情勢を機とした経済の混乱や円安による物価上昇等、不透明な状況が続いております。

一方、清々しいニュースとしては、サッカーワールドカップで日本代表が優勝経験国のドイツ・スペインに逆転で勝利する等、あと一步で新しい景色を見せてくれるところまで行き、日本中が沸き立ちました。

本日は静岡県舞台芸術センターSPACをお招きし、幻想的な舞台を披露していただきます。短い時間ですがSPACの魅力をぜひ感じていただければと思います。上演に引き続いて、SPAC芸術総監督の宮城聡氏に講演をお願いしております。県東部の文化力向上に向けてお話をいただければと思っております。

当懇話会の活動が28年間継続できているのも、会員の皆さまのご支援ご協力の賜物であります。ここに改めて感謝申し上げるとともに、さらなるご協力をお願いし、主催者の挨拶とさせていただきます。

懇話会代表幹事挨拶



静岡中央銀行
代表取締役社長
清野 眞司

本日は年末ご多忙の中、多くの皆さまに足を運んでいただき、感謝申し上げます。

2022年を振り返りますと、依然として新型コロナウイルスの感染状況は収束の見通しが立たず、国際情勢もますます不安定な状況です。円安に伴う値上げの波はおさまらず、日銀による事実上の利上げ策によって株式マーケットは揺れ動いております。

12月の日銀静岡支店の短観によると、本県企業の景況は非製造業である宿泊旅行サービス業で改善の動きが見えるものの、製造業ではエネルギーや原材料の高騰等により悪化が続いています。

そんな中、当地においては長年にわたる懸案事項であった沼津駅の鉄道高架化事業に目処が立ち、それに伴うJR沼津駅南口の商店街再開発、駅北口の大型商業施設跡の土地活用、さらには富士山周辺のウーヴンシティ構想、JR三島駅南口再開発、伊豆縦貫自動車道の延伸等、地域の未来を拓く開発事業が動き出しております。当懇話会も以前にも増して実効性のある提言活動を進めてまいりたいと思っております。

本日は全体会の前に運営委員会を開催し、来年度の活動方針について検討を行いました。県東部を活力ある地域にするため、柔軟で独自性ある新たな発想が求められます。本日ははじめ、あらゆる機会を活用し、皆さまのご意見をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

懇話会運営委員長挨拶



伊東法律事務所長
伊東 哲夫

2022年度も皆さまのご支援ご協力のおかげで無事、事業が遂行しております。本日の運営委員会に取りまとめた内容をご報告いたします。

まず2022年度の活動報告ですが、5月30日の総会では外交ジャーナリストの手嶋龍一氏に『プーチンの戦争にどう臨むか～台湾有事に影落とす中ロの連携』と題した記念講演を開催しました。9月5日にサンバレー伊豆長岡で開催した伊豆地区分科会では『ウィズコロナ時代の持続可能な観光地』をテーマにパネルディスカッションを開催。基調講演『頼朝再発見！IN伊豆』では歴史作家の秋山香乃氏に、大河ドラマで注目された源氏や北条一族のエピソードについてお話しいただきました。

11月8日にプラサヴェルデで開催した東部地区分科会では、川勝県知事をお招きし、ファルマバレープロジェクトの推進について討論しました。基調講演では静岡がんセンターの山口建総長、ファルマバレープロジェクト推進機構の大坪檀理事長にプロジェクトの経緯や今後の展開についてお話しいただきました。そして本日の全体会とつながります。

2023年度の活動計画としては、中長期的かつ継続的な提言として、例年同様、4つの柱を設けました。第1にウィズコロナ時代の伊豆東部の観光文化力創造への支援。第2に愛護から共生へ、県東部を動物愛護の先進地へ。第3に未来の景観を県東部から発信する。4つめは県東部の地域創生につながる新産業への支援です。

総会までにさらに検討を重ね、皆さまに正式にご提案できるよう準備してまいります。2023年度もサンフロント21懇話会の活動がより一層盛会となりますよう、皆さまのご支援ご協力をお願いする次第です。

記念講演

世界から見た日本の芸術 そして静岡のこれからは… ～県東部地域における文化力の 向上に向けて～

講師

演出家・
静岡県舞台芸術センターSPAC芸術総監督
宮城 聡氏

どの国にもどんな時代にも
「演劇」は存在する

静岡に来て15年になります。演劇を生業にしておりますが、いまだに不思議に思うのは、歴史をさかのぼると、どんな時代のどんな地域にも演劇があるということ。演劇のない国や時代がないのです。イスラム圏にあるのか？と思われるかも知れませんが、イスラムの教えでは歌舞音楽は神が喜ばないといわれますが、実はちゃんとあるのです。テレビで踊りながら歌うというシーンは見られませんが、砂漠の地域らしく、小さなテント小屋で人形劇のようなものを移動上演しています。

日本では、芸術といえば絵画や音楽で、演劇に触れる機会はさほど多くないといわれます。海外では芸術大学に舞台芸術学部がありますが、日本にはありません。その理由は、明治政府がヨーロッパの教育制度を取り入れた時、西洋音楽や美術はそれまでの日本にはまったくなかったもので積極的に導入した。逆に舞台芸術は「歌舞伎」を筆頭に世界的にも非常に発達していたジャンルでした。そこにヨーロッパの演劇を持ち込むのは難しいと思われたのです。

音楽は原始人にとって連絡手段であり、生きのびるためのコミュニケーションツールとし



て発達しました。絵画は見たものを真似ようという人間の本能がなせる技です。

言葉を覚え、嘘を付き、孤独に悩む？

では演技が発生した理由は、といえば、2つの方向から考えられます。

ひとつは人間が言葉というものを獲得したこと。言葉を使えない赤ちゃんは、ある意味、人間の一生の中で最も幸せな時期だといえます。言葉が使えないから周りの大人がものすごく一生懸命世話をする。「きっとこの子はお腹が空いているんだろう」「眠いんだろう」と慮ってくれる。世界中が自分の味方、自分の仲間だと実感できる、孤独とは最も遠い幸せな経験です。

ところが言葉を覚え、「お腹が空いた」と言えるようになると、「本当に空いたの？」とわざわざのぞき込んでくれる人はあまりいません。言葉を獲得した瞬間、世界中が自分をのぞき込

まなくなる。そんな経験をほとんどの人間が経験し、他者から切り離される。旧約聖書の失楽園のエピソードのように、知恵を獲得した瞬間、幸せな楽園から追放されてしまうのです。

のぞき込んでももらえなくなった人間は、嘘をつくことを覚えます。お腹が空いていなくても「空いた」と言って周囲の関心を引こうとする。嘘というものを知ってしまうと、人は世界と乖離した状態に自らを追い込み、孤独に陥ってしまいます。言葉を手に入れて、嘘をつくことを覚えたときから、孤独というものが一生ついて回る悩みとなる。この悩みが演劇を生みだすのです。自分は世界から断絶した、孤独な存在となってしまった。それでもなんとかして人とつながっていこうと思ったとき、演劇が生まれたのではないかと考えられます。

演劇とは人間の「くびき」

演劇は、他人の人生を演じます。私は「私の人生」しか経験できませんが、他人の人生を経験してみたいという願望は誰にもある。それがもう一つの演劇の存在理由です。

演劇と、演劇ではないものを分けるのは、身体・言葉・集団という3つの要素があるかないかです。身体や言葉があっても集団でなければ演劇とはいいいません。一人芝居も裏方なしでは出来ませんから、やはり集団での表現です。

身体・言葉・集団というのは人間にとっての「くびき」であり、なんとかそこから逃れたいと思う存在です。

人間は脳が動いていても身体が休んでいる、肉体を忘れて脳だけが回って夢を見る時間が幸せです。本当に信頼し合っている人となら言葉は要らない。言葉を使わずとも相手と深く理解し合えるというのが、一番幸せな関係でしょう。また、人は集団でなければ生きられないからこそストレスになる。

これら「くびき」をふまえた表現が演劇なのです。舞台上で等身大の人間が演じるものは、夢にもならないし、一時この世を忘れるような快

楽も得られない。ある意味、地上に縛られ続けるような表現です。アニメならどんな巨人も登場させられますが、舞台上ではそうはいかない。そんな夢のない表現だからこそ、劇場を出た瞬間にまったく無関係の存在にはならず、日常生活に持ち帰ることができる。それが劇場の魅力でもあります。

芸術＝異なる価値観が同時に存在する現象

演劇の歴史をたどってみましょう。冒頭で、どの時代のどの国にも存在すると言いましたが、最初はそのほとんどが「芸能」でした。

「芸術」としての演劇が誕生したのは紀元前5世紀のギリシャです。演劇になる直前のカタチは、プロの俳優が一人で、導師と大衆のように神を称える台詞を叫んで大衆が呼応するというものでしたが、2500年前、アイスキュロスという詩人が、俳優を2人にして意見を闘わせたかどうかと提案した。誰にでも思いつきそうなことですが、この当時、世界のどこにもこんなことを思いつく人はいなかったのです。異なる価値観をぶつけ合い、勝ち負けは付けない。観客が、自分ならどう受け止めようか考えるようにしたのです。

この試みはデモクラシーの始まりともいわれますが、当時の劇場は男性しか入れませんし、俳優も男性です。そこで、アイスキュロスは「男を演じる俳優と、女を演じる俳優で、男性の価値観と女性の価値観をぶつけてみよう」と提案した。男性客は、今まで当たり前だと思っていたことが「女房から、娘から見たらこういうふうに見えるのか」と揺さぶられる。こういうことを始めたのが古代ギリシャの演劇であり、突然変異ともいうべき現象です。他のどの地域にも長らく存在しませんでした。

日本の能は14世紀に誕生した世界的にも優れた演劇ですが、基本的には一つの価値観によって構成されています。鬼なら鬼で、日照りが続いて雨が降って欲しいとき、鬼が出てきたら雨を降らせないようにする、というような価

値観です。

ある町で風邪が流行っていたとき、風邪の神というお人形を作って川に流す「風邪の神送り」というお祭があった。「送れ、送れ、どんどん送れ」と囃し立てて流したとき、誰かが「お名残惜しい」と口にした。「おい、今の誰だ？」と騒ぎになったが、声の主は薬屋でした。そんな異なる価値観が、近代になると出てきますが、能の世界は基本的に一つの価値観しか持たない。世界中の演劇がそうでした。旅芸人ならば訪ねた地域の価値観を探り当てながら演じていたわけですが、古代ギリシャでは異なる価値観が同時に存在した。これが「芸能」と「芸術」の分岐点になったのです。

異なる価値観を前提にした芸術は、近代以降、多様な価値観が生まれた社会において急激に価値が増し、あらゆる都市に劇場が作られ、教会に取って代わる存在となりました。異なる価値観の人間同士が一緒に生きていくとき、演劇から知恵を学ぼうというわけです。

シェイクスピア、イプセン、 チャーホフがもたらした変化

演劇は、古代ギリシャ以降、まったく進化しませんでした。シェイクスピアの頃、ようやく次の段階に進みました。ルネッサンスの思考が演劇に入ってきたのです。すなわち「自分の人生は、神が決めるのではなく、私が選ぶ」という思考です。

古代ギリシャの演劇は、運命というものが神によって決められ、本人の性格や体格に関係なく、〇〇の星のもとで生まれた人間は必ずそういう運命を辿る“運命悲劇”を描いたものです。臆病な人であろうが大雑把な人であろうが、必ず神が決めたルートを辿る。ところがシェイクスピアの頃になると、「いやいや、自分の運命はある程度自分で選べるんじゃないか」というルネッサンス的な考えが出てくる。『マクベス』に代表されるように、似た境遇であっても、1人は慎重な性格で、1人は野心的。この2人のその後の人生はまったく正反対です。性格や心の

持ちようが違えば人生はまったく異なる“性格悲劇”です。2000年経て、運命悲劇からようやく次のステップに進んだわけです。

それから19世紀になってイプセンという人が出てきました。それまでの演劇の登場人物は、観客席に居る大衆とはまったく異なる神話的な人物が多かったのですが、イプセンは観客と同じ立場や身分の人を主役にし、身の回りに起きた出来事をそのまま描くリアリズムを生み出しました。これは今日のテレビドラマにそのまま受け継がれ、まさに〇〇サスペンス劇場の世界となっています。

イプセン以降はさほどの変化は起きませんでしたが、台詞の世界ではチャーホフという人が画期的な試みを行いました。彼は、人間というのは心の中の一番大事な思いは案外口にはしないものだと考えたのです。イプセンまでは、その人物にとって一番大事なことを台詞にしてしゃべらせていたのですが、チャーホフはどうでもいい会話から、その人の心の内を観客に想像させるという手法を採った。人間というのは自分にとって何が一番大事なのか本当はよくわかっていない、うまく把握できない生き物です。それをチャーホフは台詞の書き方を工夫して表現したのです。

このように21世紀までの演劇の世界は、本当にちょっとした変化しか起きていないのですが、どこか頭の隅に置いていただいて演劇をご覧になると、ひと味違うのではないかと思います。

“ちょっと浮いた自分”にも 居場所がある地域に

現在、SPACでは県民の皆さん、とくに中高生を中心に1万人もの若者に毎年演劇を観てもらっています。こういう地域は全国でも類がないでしょう。若い彼らには、静岡で活躍すれば即、世界につながるんだということを伝えたい。幸い、2017年に世界最大の演劇祭であるアヴィニョン演劇祭のオープニングに招聘されました。これは紅白歌合戦の大トリを任せ

られたようなもので、世界中の演劇人から認められたということです。

日本や静岡が抱える問題について、演劇の立場から何かできないか。公立劇場として考えるのは、ひとつは東京一極集中と人口減少について。なぜ若者は東京に流れて行ってしまうのでしょうか。東京は、出生率は少ないのに人口は増える一方です。

昔は地方から仕事を求めて東京へ、という流れがありましたが、今は違います。それでもなぜ人が集まるのかと言えば、東京では多様な価値観が容認されているからでしょう。地方の田舎で、ちょっと自分は浮いているな、と感じる若者が、東京なら安心して居られると思えることです。これは地域にとっても非常に大きな問題で、静岡でもいろいろな価値観を持つ人が、自分らしく暮らしているという姿を積極的に伝えていくことが大切です。我々SPACは、静岡で、なんか変わったおじさんおばさんが一生懸命、表現活動しているな、静岡って面白いな、と感じてもらいたいとつねに意識しています。

演劇が教育に果たす役割

人口減少問題でいえば、ひとつは子育ての環境。小さな子どもがいても触れられる、小さな子どもも鑑賞できる文化があるということが重要です。ヨーロッパの一流の演劇人は小さな子どもが鑑賞できる作品づくりにしっかり予算を掛けています。日本はまだその点、遅れている。子ども向け作品の多くはお話が良ければいいだろうと低予算で済ませています、むしろ子どもにはテキストよりも視覚的聴覚的に優れたものを見せるべきだろうと思います。

教育に関しては大きな曲がり角に来ていると



思っています。私たち世代の責任ですね。教育は全部がダメとは言いません。日本は、中学生ぐらいまでは世界のトップレベルですが、高校に進むと世界から遅れを取るようになる。人と違うことを考えるクセを、学校が教えないからです。高校生にもなれば、人と違うことを考えるのが楽しいという感覚を持ってほしいと思うのですが、学校ではそれを教えません。ならば学校の外にもう一つの教育機関みたいなものがあって、彼らを受け入れるべき。劇場がその役割を担えたらと思っています。陸上の400メートルリレーは、学校の授業なら記録の速い生徒を4人集めればいいわけですが、演劇で400メートルリレーをやろうと思ったら、一人ぐらいいはケガしているとか練習をサボるような生徒がいてもいい。人と違うことが面白い、という表現になるのです。

最後に、国際情勢を見渡すと第二次世界大戦後、世界には緊張緩和が必要だという共通認識がありますが、再び戦争を引き起こさないためには、相手国の文化へのリスペクトがあるかなにかが、ジェノサイドを起こさない大きな力になります。日本以外の人々が日本の文化にリスペクトを持ってくれるように、日本人も相手の文化へのリスペクトを示すアクションを起こすことが必要です。

相手に自国の文化を理解してもらうには、自国の言葉へのプレゼンスを上げることが大切

です。英語はシェイクスピアを学ぶ世界中の人が必然的に学びますが、日本語で書かれた文学やシナリオを、海外の演劇を志す人が学ぶ機会ほとんどありません。かつて世界を制し

たスペインも、今、スペイン語を学ぶ人が英語並みに多いというわけではない。自らプレゼンスを上げる努力が必要なのです。演劇がその一助になればと願っています。

〈講師プロフィール〉

宮城 聰 (みやぎ・さとし) 氏 SPAC 芸術総監督

1959年東京生まれ。演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡邊守章・日高八郎各師から演劇論を学び、90年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、「世界を見る窓」としての劇場づくりに力を注いでいる。14年7月アヴィニョン演劇祭から招聘された『マハーバーラタ』の成功を受け、17年『アンティゴネ』を同演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『王女メデシア』『パール・ギュント』など。04年第3回朝日舞台芸術賞受賞。05年第2回アサヒビール芸術賞受賞。18年平成29年度(第68回)芸術選奨文部科学大臣賞(演劇部門)受賞。19年4月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。

SPAC舞台上演

宮城 聰氏 演出 泉 鏡花 作

「夜叉ヶ池」

時は大正、人と異界が交差する、泉鏡花の幻想世界。うつくしい舞台美術と衣裳、こころ揺さぶる生演奏で魅せる、宮城聰・SPACの人気演目『夜叉ヶ池』。今回は、夜叉ヶ池の主・白雪姫が、山向こう千蛇ヶ池(せんじゃがいけ)の恋しい若君に会いたい想いを吐露する場面上演した。



ラジオマイトーク

令和5年2月12日放送



地域貢献活動で地元企業と出前授業

いち だ まさ ゆき
市田 雅之氏
東京電力パワーグリッド(株)
静岡総支社長

モットー ▶ 一期一会
趣 味 ▶ ジョギング
出 身 地 ▶ 神奈川県

お話のポイント

♠今冬の電力需給は昨夏同様に厳しい。需要に対する供給余力を表す予備率は3%で安定供給が可能。2月想定は4.9%で、大丈夫と思われるが、40年を超える古い火力発電所を稼働させているのでトラブルの可能性は高まっている。冬は夏と異なり需要が終日続き、ピーク時に限らず節電をお願いしたい。昨年は3月末に電力が逼迫。まだ安心できません。

♥静岡総支社は富士川以東の県内20市町を所管。伊豆半島は実は山が深く、電力設備は海の塩害より樹木によるトラブルが多い。定期的に

巡視し伐採をしています。樹木の伸びに追いつかない状況もあります。

◆様々な地域貢献事業を展開中で、次世代育成活動「未来キャンパス」は東部地区の小中学校で地元企業と職業に関する出前授業を主催。「五輪遺産」としてマウンテンバイク用に富士山南麓の送電線巡視路を整備して開放。知名度はまだ低いですが、マニアに人気です。弊社HPから誰でも申し込みます。

♣6年ぶりの沼津勤務。昼休みは狩野川沿いをジョギング。富士山がドーンと見えて「いい所だ」と実感します。

令和5年2月26日放送



10年前後で伊豆縦貫道の全線開通目指す

わた なべ しょう いち
渡部 正一氏
国土交通省中部地方整備局
沼津河川国道事務所長

モットー ▶ 常に地球儀を俯瞰する意識・心構えで物事を考えること。そして、自分も含め、ただただ、みんなが笑って、幸せな時間を過ごすために行動すること

趣 味 ▶ ドライブ、スキー、アウトドア、カヌー
出 身 地 ▶ 北海道札幌市

お話のポイント

♠管轄は県東部全域。伊豆半島の持続的な発展を担う伊豆縦貫道は天城越え区間20キロ以外の河津町と下田市で事業を全面展開し、3月19日に同町3キロ区間が天城以南で初めて開通します。天城越えは難航しているが、10年前後で下田まで到達して全線開通したい。

♥伊豆半島のソフトは将来性が非常に高い。世界ジオパークの地形など人知を超えた世界には感動がある。首都圏に近く立地もいい。さらに20年後を見据えて「おもてなしの精神」を醸成したい。伊豆縦貫道を活用して拠点整備と連

携を進め、来訪者に「伊豆半島で遊び尽くして」とウエットに宣伝してほしい。

◆人と人のつながりは観光でも重要。例えば道の駅「月ヶ瀬」は下田か土肥か経路選択の分岐点。ここを拠点として整備し来訪者に認知してもらい、おもてなしの精神で案内し、伊豆半島を周遊してもらえれば。観光客にお金を使ってもらうことが地域経済にとってのゴールです。

♣スポーツは人を結び付ける力があり、その普遍的な価値観を使って地域創生をしていくことが大事。そこに我々が管理する道路が溶け込み、空間を創り出せるようになればと思います。

サンフロント21懇話会の 会 員 情 報

■ 新たに入会された方

- ◇(株)イワサキ経営…………… 代表取締役社長 吉川 正明
- ◇静岡県創価学会…………… 広報部長 松本 年弘
- ◇公益財団法人静岡県舞台芸術センター…………… 理事長 鈴木 壽美子
- ◇静岡県立工科短期大学校…………… 校長 柳下 福蔵
- ◇学校法人新静岡学園 静岡産業大学…………… 学長 堀川 知廣
- ◇(株)ファンケル美健…………… 取締役統括管理本部長 酒井 隆
- ◇(有)やまがた…………… 代表取締役 山縣 正二郎

■ 会員の變更

- ◇SMBC日興証券(株)沼津支店…………… 支店長 西尾 宏樹 → 竹内 貴浩
- ◇小山町…………… 町長 池谷 晴一 → 込山 正秀
- ◇木内建設(株)沼津支店…………… 支店長 土屋 隆男 → 鈴木 弘人
- ◇静岡県熱海土木事務所…………… 所長 杉本 文和 → 佐藤 芳健
- ◇静岡県賀茂健康福祉センター…………… 所長 田中 尚 → 鈴木 藤生
- ◇静岡県賀茂地域局…………… 局長 山根 正嗣 → 白鳥 満啓
- ◇静岡県賀茂地域局…………… 次長兼地域課長 青木 克裕 → 白土 達夫
- ◇静岡県賀茂農林事務所…………… 所長 藪崎 武彦 → 諸田 僚
- ◇静岡県工業技術研究所沼津工業技術支援センター センター長 大川 勝正 → 鈴木 宏史
- ◇静岡県工業技術研究所富士工業技術支援センター センター長 桜川 智史 → 飯野 修
- ◇静岡県下田財務事務所…………… 所長 原田 直彰 → 神谷 明良
- ◇静岡県田子の浦港管理事務所…………… 所長 吉川 正剛 → 北川 裕人
- ◇静岡県中小企業団体中央会東部事務所…………… 所長 押尾 昌俊 → 近藤 眞臣
- ◇静岡県東部健康福祉センター…………… 所長 小坂 寿男 → 窪田 浩一郎
- ◇静岡県東部地域局…………… 局長 板垣 孝博 → 柳川 典之
- ◇静岡県東部地域局伊豆観光局…………… 局長 柳川 典之 → 市川 顯
- ◇静岡県東部農林事務所…………… 所長 望月 辰彦 → 乾 正嗣
- ◇静岡県農業協同組合中央会中東部支所…………… 中東部支所長 鈴木 琢磨 → 鈴木 毅
- ◇静岡県沼津土木事務所…………… 所長 山本 浩之 → 曾根 裕介
- ◇静岡県富士財務事務所…………… 所長 佐藤 広昭 → 八木 直行
- ◇積水ハウス(株)沼津支店…………… 支店長 副島 敏昭 → 中尾 巨治
- ◇損害保険ジャパン(株)東部法人支社…………… 支社長 後藤 圭吾 → 丹下 義崇
- ◇(株)大丸松坂屋百貨店 松坂屋静岡店…………… 店長 落合 功男 → 上西 征直
- ◇(株)日本政策金融公庫沼津支店…………… 支店長兼国民生活事業統轄 飯澤 貴志 → 五十嵐 邦延
- ◇(株)フジタ富士営業所…………… 所長 森野 典彦 → 佐々木 達也
- ◇明治安田生命保険相互会社沼津支社…………… 支社長 今田 孝司 → 松尾 洋
- ◇下田市・賀茂郡県議会議員…………… 森 竹治郎 → 加畑 毅
- ◇函南町県議会議員…………… 廣田 直美 → 岩田 徹也
- ◇沼津市県議会議員…………… 加藤 元章 → 長泉町県議会議員 加藤 祐喜

■ 肩書、会員の變更

- ◇一般財団法人アグリオープンイノベーション機構
専務理事 岩城 徹雄 → 専務理事兼事務局長 細谷 勝彦
- ◇特種東海製紙(株)
取締役執行役員特殊素材事業本部長 大沼 裕之 → 執行役員総務人事本部長 田中 浩之
- ◇(株)ホテルグランド富士 代表取締役社長 広岡 隆英 → 取締役社長 戸塚 祐一郎
- ◇丸善工業(株) 取締役会長 諏訪部 敏之 → 代表取締役社長 諏訪部 行生

■ 会社名、会員の變更

- ◇富士通Japan(株)静岡東部支店 → 富士通Japan(株)
支店長 野本 貴之 中部ロジスティクスビジネス部長 柿原 敏秀

■ 肩書の變更

- ◇(株)共和 伊藤 稔 代表取締役 → 最高顧問